

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズスクールメグシ酒田教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日	～	令和8年2月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 13	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日	～	令和8年2月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 1	(回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師が在籍し、医療的ケア児への対応、または急なケガや発熱時に迅速に対応することができます。	感染症対応マニュアル等を策定し、感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止の訓練を実施し職員の感染症対策に対する意識を高め、安心できる教室運営に努めております。	看護師チームによる定期的なミーティングを行っている。事業所内の感染症対応マニュアルだけではなく全事業所で共通のケガ等に対する事業所対応マニュアルを作成し、安全に教室運営ができるよう努めております。
2	イベントを定期的に開催し、お子様だけではなくごきょうだいも一緒に参加できるよう内容を工夫しております。	「自立支援と日常生活の充実」「多様な遊びや体験活動」「地域交流」「こどもが主体的に参画」の4つの基本活動を軸とし、放課後では時間の関係上難しい活動を学校休業日にイベントとし開催しております。	イベントへの参加において、お子様、きょうだいだけではなく、保護者様も一緒に活動できる内容を検討し、家や学校以外のお子様の様子を通じ、事業所の職員がその場で相談、助言が行えるよう環境を工夫しております。
3	顧問医師に助言を仰ぎながら、よりよい支援内容となるよう検討することができております。	月に一度、顧問医師による療育相談会を開催し、保護者様の相談内容について、顧問医師の助言のもと保護者様、関係機関、事業所の職員が共通認識のもと支援することができております。その際、記録も作成し関係機関各所へ配布し、今後の支援への情報共有にも努めております。	療育相談会の相談内容をまとめた本を出版しております。実際の相談内容や顧問医師の助言を、当事業所のご利用者様以外の方々にも広く知って頂き、読んでいただいた方のお子様、お知り合いに関する困り感などの、解決の糸口になれば幸いと考えております。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所評価シート19項について ※こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	個別療育を中心とした教室のため集団活動を行う機会がありませんが、個別の関わりでは見えてこない社会性の発達に困難さを抱えるお子さんも多いことから、小集団活動へのニーズもあり、今後の課題と考えます。	個別活動が中心ですが、同じ時間に利用しているお子様と挨拶や交替等の関わりができる環境となっています。個別活動の他、今後はお子様の課題に合わせた小集団活動も検討していきます。
2	事業所評価シート45項について ※事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	事業所で行なうイベントについて、地域住民の方々にもお声がけしオープンな行事とすることについては、ご利用者様より賛否のお声があり、開催に至っていない状況にあります。	インクルージョンの観点から、地域住民の方々も参加できる事業所のイベント開催ができるよう事業運営を図ると共に、ご利用者様、保護者様ひとりひとりのご意見を最大限尊重できるように、地域住民の方々にオープンなイベントも計画して参ります。利用者様限定でのイベント開催も継続するなど、慎重に検討して参ります。
3	事業所評価シート30項について ※学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	現在実績がないため、サービス移行の際の支援内容、情報提供を行う際、ご利用者様が納得できる役割が果たせるよう、関係機関との連携は密に行う必要があると考えております。	学校卒業後の進路については、当然ながらひとりひとり違い、進学、一般就労、就労支援、生活介護等が考えられます。どのような進路の場合でも、放課後等デイサービスご利用中、お子様や保護者様へよりよい助言ができるよう、移行先への施設見学、情報収集を行い、安心して当事業所を卒業できるよう努めてまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	キッズスクールメグシィ酒田教室
------	-----------------

公表日 令和8年2月13日

利用児童数

13

回収数

7

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7				酒田教室の他に、平日は「山のメグシィ」を利用させていただいております。幼稚園の長期休園で預ける場合、昼食後の「歯磨き」がされているか気になっております。それ以外はいつも丁寧に見ていただき、また様子を伝えていただき感謝しております。これからมากยิ่งขึ้นお願い致します	ご意見ありがとうございます。昼食後の歯磨きについては歯ブラシをご持参いただいたご利用者様は基本的に取り組むようにしておりますが、保護者様へは毎日の歯磨きの取り組み状況をお伝えはしておりませんでした。今後は歯磨き実施の有無をご家族の方へご連絡できるように教室内で情報共有しお伝えできるように努めてさせていただきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5			2		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6			1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	6	1				
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	1		1		
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6			1		
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7						

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			3	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			3	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			2	
	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				
満足度	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				
	29	事業所の支援に満足していますか。	7			いつも子どもに寄り添っていただきながら支援いただきありがとうございます。	温かいお言葉をありがとうございます。お子さまの気持ちに寄り添うことを大切に日々支援しております。そのように感じていただけて大変嬉しく思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		キッズスクールメグシィ酒田教室				公表日	令和8年2月13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育を行っているため、運動を行う部屋と机上活動を行う部屋に分けて活動しています。	十分なスペースがあるか、日々の療育を通して今後も検証していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に配置しています。また、基準以上の専門職を配置し、手厚い支援を心掛けています。	定員の調整や職員の配置には引き続き注意を払いながら運営していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		貼り紙等で視覚化をすることで、お子様に分かりやすい環境にしています。	感覚過敏のあるお子様に配慮しながら環境を整えていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔で心地よく、活動に合わせた空間づくりを行っています。	心地よく過ごせる環境整備とともに、感染症予防として室内の換気、消毒等にも努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育のため個々に部屋を使用しています。クールダウンするための部屋も整備しています。	様々な特性のあるお子様が安心して活動できるように環境を整えていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に目標設定と振り返りを行い、業務改善に努めています。	社内研修や外部研修等を通して今後も業務改善に努めていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表や面談にて保護者様の意向等を把握するようにしており、その後の業務改善に活かしています。	今後も保護者様の意向等を聞き取る機会を設け、業務改善につなげていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングで職員の意見等を把握する機会を設けています。	職員間での情報共有や意見交換に努め、業務改善を行っていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		顧問医師による評価を参考にしながら業務改善に努めています。	外部評価の結果を業務改善につなげ、その後の検証も行っていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修だけでなく、外部の研修に参加する機会も設けています。	今後も社内研修を継続するとともに、外部の研修に参加する機会を設け、職員の資質の向上に努めます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、ホームページ等で公表しています。	ホームページやおたより以外でも広く発信できる手段がないか検討を進めていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個々のお子様に対して適切なアセスメントを行い、ニーズや課題を分析した上で計画を作成しています。	適切なアセスメントを実施し、面談等を通してお子様や保護者様の希望を聞き取り、ニーズを分析し計画を作成していきます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員で情報共有した上で検討しています。	専門職員による様々な視点でアセスメントを行い、今後も職員間で共通理解した上で検討していきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画について職員間で共有し、計画に沿った支援を行っています。	計画の共有だけでなく、日々のミーティングでも情報共有や検討を継続していきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察を中心として、必要に応じて評価バッテリーを使用しフォーマルなアセスメントも実施しています。	今後もフォーマル、インフォーマルなアセスメントを使用し、広い視点でお子様をアセスメントしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえ、項目や具体的な支援内容を設定しています。	今後もガイドラインに沿って、支援に必要な項目、具体的な支援内容を設定していきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで情報共有しながらプログラム立案を行っています。	専門職員による様々な視点で活動プログラムの立案を行っていきます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ遊具でも姿勢や関わり方を変える等、活動プログラムが固定化しないように意識して行っています。	変化が苦手なお子様についても一部変更する等、遊びや活動の幅が広がるように関わっていきます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動が中心ですが、同じ時間に利用しているお子様と挨拶や交替等の関わりができる環境となっています。	個別活動の他、お子様の課題に合わせた小集団活動も検討していきます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前にミーティングを行い、チームで連携して支援を行っています。	情報共有に漏れがないようにミーティングの質の向上も図っていきます。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後も情報共有を行い、支援内容を記録しながら気付いた点を共有しています。	必要な場合は事業所内だけでなく、社内でも情報共有を行い、速やかに対応できるようにしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容やお子様の様子を記録し、支援の検証・改善につなげています。	支援の検証・改善につながるように、客観的な記録の作成に努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の適切な見直しを行っています。	職員間での情報共有に努めながら、個別支援計画の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、主担当の職員も参加するようにしています。	今後も会議の記録を作成し、事業所内での情報共有に努めています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携し支援を行う体制を整えています。	サービス担当者会議以外でも関係機関と連携して支援を行う体制を整えています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		サービス担当者会議にて、保育園等の関係機関との情報共有については密に行い、支援を行っています。	インクルージョンの推進においては、社内全体で取り組んでいきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		放課後等デイサービスへの移行の際には関係機関で支援内容等について情報共有を行い支援を行っています。	移行時の連携については、関係機関が多くなることも踏まえ慎重に対応していきます。スムーズに移行できるよう連携に努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要時には連携を図り、助言や意見交換を行っています。	多くの職員が助言・研修を受けられる機会を設けていけるように努めます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		イベント等で他地域のお子様やそのきょうだい・ご家族等と一緒に活動し、交流する機会を設けています。	特性やプライバシーの観点から難しい面もありますが、配慮しながら交流の場や機会を作っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		療育中やお迎え時に保護者様との情報共有を行っています。必要に応じて面談を行い、お子様の状況や課題を共有しています。	今後も日々の活動内容だけでなく、お子様の最近の様子や保護者様の困り感共有しながら支援していきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		地域で行われるペアレント・トレーニングや講演会の情報発信だけでなく、社内でもペアレント・トレーニングや茶話会、講演会を実施しています。	保護者様同士の交流や情報共有の機会を多く持つことができるよう、時期や回数を検討し開催できるよう努めます。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にご利用のしおりを使用し、丁寧に説明しています。パンフレットやホームページ等でも情報を公開しています。	難しい言葉は分かりやすく説明できるようにしていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お子様、保護者様の意思を尊重し、個別支援計画を作成しています。保護者様の意向確認も行っています。	こどもの最善の利益の優先考慮の観点を忘れず、ご家族に寄り添いながら計画を作成していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画について、支援内容の説明を行い、同意を得ています。	専門用語で難しくなりすぎないよう、保護者様に寄り添った視点での説明に努めます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者様からの相談等に応じ、面談等を行っています。必要時には療育相談等を開催し、顧問医師からの助言もいただいています。	相談内容への対応を迅速に行えるように、職員間の連携及び社内への報告体制を強化します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会を事業所内や社内の酒田地区事業所合同で開催しています。保護者様から家庭等での様子についての共有や保護者様同士の交流の機会となっています。	父母の会やきょうだい間の交流の機会についても引き続き検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談があった際には迅速に対応しています。適切に対応できるように苦情申出窓口を設置し、職員間で内容の共有、相談も行っていきます。	保護者様からのお声は、会社全体で情報共有し迅速に対応できるようにしていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月1回の通信発行、ホームページ、LINE等を活用し、情報発信を行っています。	個人情報に配慮しつつ、発信のツールや頻度を検討していきます。

非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報については退勤時、鍵付きキャビネットに十分注意して保管しています。	個人情報取り扱いについての研修も定期的に開催し、大切に取扱っています。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子様や保護者様との意思の疎通ができるように電話、LINE等、ご利用者様一人ひとりに合わせ、伝達手段を検討し対応しています。	デリケートな事案については、顧問医師等に助言を仰ぎながら丁寧に進めていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方々にご理解をいただきながら事業運営ができるよう、今後、地域交流について検討していきます。	日頃お世話になっている近隣の方に、感謝の気持ちを伝えられるような活動、清掃や除雪活動等の実施も検討していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、保護者様、職員に周知を行っています。	研修会の回数を増やす等、全職員への徹底を図っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っています。	避難訓練等の実施内容の見直し、開催頻度等、検討を進めていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		お子様の服薬や予防接種、発作等について日々細やかに状況確認を行っています。	社内の看護師と連携しながら、正しい対応ができるよう努めます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		ご利用開始前に個人調査票を用い食物アレルギーについて必ず確認し、医師の指示・保護者様の説明を得て対応しています。	共有漏れないよう、しっかりと全職員に伝達し対応することを続けていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、研修や訓練、点検等を行っています。安全管理も考慮し支援を行っています。	実践的な訓練となっているか、検証にも注力し今後も続けていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に安全確保について説明を行い、保護者様と連携ができるように周知しています。	特性に基づいた安全確保となるよう、契約以後も保護者様と情報共有し、連携を密に進めていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを随時記録、職員間でしっかり共有し、同様のケースの再発防止に向けて検討しています。	再発防止に努め、研修等も実施していきます。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置、職員研修を行い、適切な対応を行っています。	外部研修等にも積極的に参加し、理解を深めることを続けていきます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束について委員会内で検討し、必要性が考えられるご利用者様については十分に説明を行い、個別支援計画に記載する等の対応を行っています。	事前、事後の説明をしっかりと行い、保護者様にご納得いただけるよう、今後も進めていきます。	